

交通協議會にあらはれた現下の諸問題

准會員 海野信吾

1. 緒 言

交通部門諸行政業務強化の緊要性の益々顕大化され来たつた現時局下交通部提案の地區交通協議會開催の要望に應へ中央地方緊密なる連繫一體化の下に強力なる交通部諸行政の推進企圖の目標を以て去る七月全滿に魁ヶ哈爾濱に於て北滿地區交通協議會が開催された。筆者は幸にして本協議會を傍聴する機会を得て時局の要請する緊急重大にして切實なる幾多の諸問題に觸れると同時に交通部北滿各省及び滿鐵關係主辦者の聲援熱心に接し感ずる所まことに多かつた。従つて其の末席をけがせる一員として或は交通土木にたづさはる一技術者として敬へて駄馬に鞭打ち乍ら本文を草した次第であるがこの冒険的試みはなかなかとも他山の石ともなれば幸甚の至りと思つて居る。本篇に於ては交通協議會の意義とか或はその經過内容を報告するのではなくして各關係機關の提出せる協議議案の中最も重要にして興味あると思はれた二三の問題を主題として考察し之を極く概括的に論じて見ようと思ふ。

2. 交通協議會に就て

地場産業の振興も農産物増産出荷も或は、國防國家建設と云ふやうな大きな問題も交通機關の發達と、圓滑なる輸送運営に大なる影響を持つことは今更論ずるまでもないことである。先般北滿地區交通協議會が哈爾濱に於て開催され交通部次長閣下を始め北滿各省の次長廳長及び滿鐵其他關係各機關の幹部等數十名一堂に會し時局柄重大關心の持たれて居るこれら交通行政諸問題に付き隔意なき協議懇談が行はれた。従來此の種の會議としては土木主任官會議或は土木關係各處長會議が年一回新京

に於て催されて居つたが其の質をみるに種々情況を異にする全滿各省が一堂に會する爲め當該地方の緊切なる要請に即する具體的問題が粗上に乗ること少く全滿共通的な問題を求める結果抽象的論議に耽れ又職業柄自然技術的方法論に局限される傾向が多かつた。然し乍ら交通部所管諸行政の問題は我々國政の基礎部門として其の諸政との総合的解決を必要とするに至つた。今や大東亞戰下決戦段階に對處し滿洲國政全般を通じて對日期待より對日寄與への方向轉換に際會したる今日に於ては交通部としても從來の建設部面に加ふるに更に輸送部面、其他應急的對策部面の重要性が強調せられ交通部直系下部行政機關の孤立的態勢を一掃し交通行政各級の面に於て地方行政との結び付きが再認識せられるやうになつた。即ち農産物の飛躍的増産や生必物資の輸送、或は重要生産資材の動員、國內治安乃至は國防の完遂等に關聯し、單に輸送部面に止まらず裡水、郡邑、其他各級の交通行政部面に於て、中央、地方との連絡は勿論當該地方の相隣接する地方との緊密なる連繫を保ちつつ有機的一體として而も、総合的、且つ具體的な行政を推進すべき必要に立至つたのである。こゝに於て全滿を其の行政の類型に従つて、五つに區分し各地區別協議會を開き、土木建設部門の問題は加ふるに各地區に於て時局下緊要なる地方的交通關係諸問題に付て隔意なき協議を遂げ以てその解決に一步を進めんとしたのである。

3. 協議會にあらはれた諸問題

北滿地區交通協議會に於て提出せられたる各種主要なる諸問題を個條別に列擧してみれば次の通りである。次項に於て其の中の二、三を取上げ簡単に解説を加へ私見

を述べてみたいと思ふ。

1. 北滿幹線道路交通の確保に関する件
 - (イ) 道路の路面確保に関する件
 - (ロ) 改主従徒による道路改修の一層強化と重畳衣裳の採用
 - (ハ) 濱江省西部地方幹線道路の舗装に関する件
2. 開拓道路の整備強化に関する件
 - (イ) 開拓幹線道路建設に関する件
 - (ロ) 開拓幹線並に主要連絡道路建設に関する件
 - (ハ) 開拓道路路裁決定に関する件
3. 北滿三角地帯鐵道布設に関する件
 - (イ) 青崗、盛東間私設鐵道に關して
 - (ロ) 克山明水間私設鐵道に關して
4. 産業開發に伴ふ埋水促進に関する件
 - (イ) 農産増産の見地より防水事業に計畫性を附與せしむ件
 - (ロ) 治水と利水の調達に関する件
 - (ハ) 松花江開發懇談會結成の件
5. 北滿水運強化對策に関する件
 - (イ) 北滿地獄水路輸送強化對策に関する件
 - (ロ) 産業開發、農産出荷、生動物輸送に関する松花江航路維持に就て
6. 土建統制法と政府政策的の矛盾に関する件
 - (イ) 土建界の團圓が統制發展に當り政府契約規則改正の件
7. 小運送統制工作に関する件
 - (イ) 小運送強化に関する件
8. 都邑建設上の諸問題に関する件
9. 交通部關係現地機關統一に関する件
 - (イ) 交通部新行政機構強化に関する件
 - (ロ) 北滿地獄建設關係保衛員整備強化に就て

4. 考 論

(イ) 北滿幹線道路交通の確保
大東亞戰爭の完遂の爲、煤、石炭の増産、或は農産物増産出荷、且は大東亞共同國の北方總樞としてわが滿洲國に負擔された役割は益々強化された現今滿洲に於ては一萬餘軒の鐵道と、二萬餘軒の自動車道路、並に五千ほ

に近い北滿河川航路の交通網が組織を統一的に運営され輸送以外に、開拓及び國防の二大國家使命を果してゐる「道なき曠野」と歌はれた滿洲も鐵道局の設立と同時に鐵道十年計畫を立て2萬5千軒を目標として實施中であつたが昨年を以て一應完了した。然し乍ら在來の北滿洲道路は自然的に又人文的に惡條件のためその發展は非常に阻害され未だに原始的状態を脱して居ない。即ち自然的條件としては冬季極寒で土地凍結し河川は堅氷しその爲天然道路を形成し農民の輸送便になるが夏の雨期には土質が粘土或は礫砂土の爲路面泥土と化し文字通り泥濘路を没するの狀態である。その上舗裝用の碎石や砂利の採取入手困難にして更に構造物用の木材産出少く所謂材料資材現地調達がいたつて困難であり或は又人文的には前代軍閥政權の遺棄事業への無關心と滿洲文化經濟の未發展等色々な惡條件に阻まれたる爲四季を通じて通行可能なる完全道路は極めて少く雨期には省城縣城及び驛站門を結ぶ主要幹線道路さへ交通杜絶する狀況であるが、今や世界情勢は刻々緊迫を生ずるの狀況に於て又對日寄與の重責を負ふ滿洲國產業輸出に鑑みる時斯の如き現状整備改良を在滿歲月の推移に委するを得ず一刻も早く之が對策を講じ主要幹線道路の交通は常時之を確保しなければならぬ。殊に鐵道分布疎なる北滿地區に在つては道路の遠距離輸送に資する處極めて大にして之が眞の使命は鐵道と同一なりと云ふも過言ではない。

然らば如何なる方策を以て之に對處すべきか豫算計上配分の適應策。道路の技術的改良策。舗裝道路建設策。改主従徒策。等々種々の議論も出たが要するに滿洲の特殊事情と現時局に適應した對策としては改主従徒政策を更に強化し路線は重疊的に選定施行し砂利、碎石舗裝程度の道路を確立し以て四季を通じ交通を可能ならしめるにある。尙ほ吾々技術者の創意工夫と違ひ、事情の必要なることは勿論であるが一般原住民に愛護思想を普及し官民協力して道路建設及び維持修理に當ると云ふことがたゞ單に道路と云ふ問題だけでなく國家意識の昂揚、或は勤勞精神の涵養等の立場から見ても非常に大切なことではないかと思はれるのである。

(ロ) 開拓道路の整備強化に就て

北滿各省は開拓適地として建國以來數次に亘り年々多數の開拓團の入植を見農産増産躍進に促進しつゝあり其の開拓省たるの面目躍如たるものがある。然るに團の建設並に營農に缺くべからざる開拓道路に關しては政府も累年巨額の資を投じ開拓政策の遂行に萬遺憾なきを期して居つたが在來の開拓道路建設は國本部より最寄り交通樞要或は既設幹線道路を根幹として建設せられて居つた爲各路線間の連繫なく孤立の無統一状態にして立地計畫的觀點より交通網計畫に若干の粗慥を來たして居た。然し乍ら開拓團の數も激増し農地も漸次造成せられ、團の入植地も互に隣接するやうになつた現今に於ては最早やかゝる断片的状態突起の道路では開拓團の健全なる發展は望み得られないのである。日本開拓團の育成なくして何の滿洲建設ぞ。たと單に未開の地に開拓團を孤立的に入植させると云ふ觀念を是正し地方計畫的乃至国土計畫的或は交通政策的立場に立つて入植地を決定すると同時に既設幹線道路を主體として開拓團入植主要地帯を連絡する統一綜合的開拓幹線道路を計畫し相隣接せる數箇の開拓團をしてその教育文化、營農施設を共有せしめ日本農民精神と農業に立脚せる理想的な田園都市の形態にまでもつてゆきたいと願ふものは一人筆者のみであらうか？實際問題として鐵道沿線より數十軒離れた開拓團にとつては完全なる道路こそまさに生命路であり、その良否は團經營上甚大なる影響を有するものである。要するに交通部、開拓總局滿務及び及省其他關係機關は緊密なる連絡をとり既設道路並に計畫道路と開拓民入植状況を照合し開拓道路的使命を有するものは開拓幹線道路とし更に必要に應じ現地に即應せる系統的且つ四季交通可能な道路計畫を立て開拓民育成と増産出荷に萬遺憾なきを期すべであらう。

(六) 産業開發に伴ふ治水促進に就て

戦力増強食糧増産の國家要請に基き我が滿洲國もその本然性たる農産基地として大東亞發にその一翼を擔ひ官民一體國家の總力を擧げて一帯増産に邁進しつゝある。この爲各地に於て農地造成土地改良事業等の諸計畫を進展して居るが滿洲の現況は主として之を河川附近地に求め氾濫を防止し以て耕地を擴張して居る状態である。

然し乍ら我が國の過去の諸情勢より察するに、その基本ともなるべき河川の調査は僅く一小部分に過ぎず特に北滿諸河川に對する一般の認識も未だに充分でなく治水計畫と利水計畫との間に一貫した綜合的な計畫と云ふやうなものも少く稍もすれば河川を局部的に處理しようとする傾向さへあつた。又開發關係機關(治水調査處、航務局、航運局、省防水開發局、水電建設局、滿務等)も頗る多岐に亘り相互に連絡の一貫性を缺き、尙施設の型に於ても大局的に觀て妥當でなかつたやうにも思はれた。かくの如き現状では到底開發の萬全を期し難くこのまま推移したならば國家的損失も亦莫大となり將來に禍根を遺す虞多分にあるのである。政府に於ても治水即治國の根本理念に立脚し天與の水を動員し、水運、灌溉、發電…等とあらゆる部面に於て河川を活用すべく各機關協力のもとに科學的綜合的具體策を立て以て國策に順應すべきであらう。これが對策として先づ河川の實態を把握すべき調査の促進強化と、水運發電灌溉…等の所謂利水事業と農地造成或は災害防止の爲の所謂治水計畫の一貫し、調整された計畫を樹立する爲、交通部、開拓總局、水力電氣建設局及び農地開發會社等よりする強力綜合機關(交通部外局理水總局(假稱))を設置し、之か施行に當つて資金資材並に技術の集中を計り以て動員的態勢を確立する方法と或は暫定的意志として松花江水系を中心とする開發懇談會を結成し關係各機關の調査研究及び意見の交換を行ひ松花江に對する認識を徹底し、諸開發、計畫性を有せしめ積極的に國策遂行に邁進しようとするのである。

松花江開發委員會の要領を記せば大體次の通りでして綜合計畫圖である。

- ①官制によらざる委員會を設け、松花江流域の水を参照とする諸問題に關し連絡調整を圖り計畫の實施をして範圍なからしむ。
- ②本委員會は總務處、興農部、經濟部、交通部、民生部、北滿各省、及び滿鐵諸機關を以て構成し必要に應じ特定のものに隨時參加せしめ得るものとす。
- ③委員會の運営は交通部、興農部、及び經濟部に於て幹事役をなし年2度定期に次年度計畫の打合せを

なすの外處理事項發生の際は臨時的に會を開催するものとす。

開催地及座長は其の都度決定し密議を促進せしむ。

(二) 北滿水運強化対策に就て

今や国力増強を目指し、陸運に水運に總力を擧げて輸送対策に腐心して居る時北滿黑龍松花江水運に負荷された貨物亦重大なるものあり。即ち北滿運河開發以來貨物運送必物資輸送、並に一切有事の際軍事作戦上南江の占める使命は甚大なりと思料せられる。然し乍ら北滿水運の現状は船舶の不足其の他の事情により時同年々物資の輸送上多大の困難を感じて居り北滿開發促進上之が水路輸送強化は黒眉の急である。之が解決策として造船所の整備並に新設、投錨施設の完備帆船統制の問題、航路維持改良等の諸問題あり充分検討の上積極的に輸送力増強を計すべきであらう。

(ホ) 其の他。むすび

以上二三の問題に就てその概略を述べたが其の他近時とみに深刻化されて來た小運送問題や土建設制施策の推進式は交通部現地機關統一に關する問題等幾多重要な諸問題が提出せられた。前者は交通廳の誕生と共に早急等かの形に於て解決せらるべき問題であり、後者も機構の整備或は人事の刷新などの形で必然的に整備強化されてゆくであらう。

時局は今や決裂段階に突入し吾等一億總額起運進軍の秋だ。交通協議會にあらはれた、これら幾多の諸問題も最早や觀念的に解決すべき問題でもなく、又協議の爲の協議でもない。

たゞ吾々の逞ましい實踐力にまつてのみ解決されるのである。この意味に於て吾々は建設事業に携はる一員として交通協議會に期待する所まことに多い。

株式會社 滿洲大林組

取締役社長 大林芳郎

常務取締役 高橋誠一

本店 奉天市大和區加茂町第十六號

支店 新京特別市大同大街三〇二號

出張所 大連、鞍山、牡丹江、哈爾濱、錦州、安東、吉林。

工場 奉天、大連、牡丹江。